

平成23年12月26日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 平尾 雅彦

プロセスシステム工学第143委員会
第185回委員会・平成23年度第5回研究会 開催通知
(143委員会ホームページ <http://www.pse143.org/>)

1. 日 時：2012年2月3日（金） 13:00～17:00 委員会・研究会

2. 場 所：弘済会館（東京都千代田区麹町5-1 / 電話：03-5276-0333）
（交通：JR 中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分）
<http://www.kousaikai.or.jp/hall/>

3. 委員会：(13:00～13:10)

4. 研究会：(13:10～17:00)

13:10～13:20 国際学会参加報告（FOCAPO 2012、CPC VIII）

テーマ：将来のエネルギーシステムの設計

13:20～14:20 「原発減少社会における電力需給～中庸の立場から」

九州大学 古山 通久 先生

<概要>

今後、日本において原子力発電の寄与が増加する可能性は極めて低い一方、今後の再生可能エネルギーの着実な増加が見込まれる。3.11を契機としたエネルギーのパラダイムの転換がどのようなスピードで進んでいくのか、再生可能エネルギー、原子力・火力・水力発電、Vehicle to Gridなどの観点から定量的に考える。

14:20～15:20 「低炭素電力供給システムとしての日本型スマートグリッドの構築に向けて」

東京大学 横山 明彦 先生

<概要>

大量の太陽光発電や風力発電を十分に活用し、3.11の東日本大震災以降の電力不足を電力供給側の増強だけでなく需要家の協力も得ながら解消することが可能な電力システムの構築が喫緊の課題になっている。これを解決するために、太陽光発電や電気自動車、ヒートポンプ給湯器などの多数の需要家の機器や情報を、双方向通信システムを介して、従来の大規模発電所と協調して電力システム全体の安定運用に役立てる日本型スマートグリッドが検討されている。これについて最新の研究成果も交えながら解説する。

15:20～15:35 休憩

15:35～16:35 「研究活動のサクセスストーリーを提案する『工業化解析』」

トヨタ自動車 株式会社 丹下 恭一 氏

<概要>

研究者が自分のテーマに関し実用化へのサクセスストーリーを作成するに当たり、実用普及化への要件となるコスト、供給量、環境負荷等の広い観点から、ボトルネックとなるプロセスを明確化するB A法（Bottleneck Analysis 法）を開発した。開発したB A法を用いて、サステイナブルエネルギーの導入が期待される自動車用燃料における解析事例を紹介する。

16:35～17:00 総合討論

<追記>

準備の都合がありますので、出欠を1月26日（木）までに下記宛てにご回答下さい。

東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻

菊池 康紀（E-mail : admin@pse143.org）

プロセスシステム工学第143委員会
第185回委員会・平成23年度第5回研究会
出欠連絡用紙

1月26日(木)までに電子メールまたはFAXにてご回答下さい。

恐れ入りますが、欠席の場合も御連絡下さい。

<宛先>

東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻

菊池 康紀 (E-mail: admin@pse143.org FAX: 03-5841-6876)

	出席	欠席
委員会		
研究会		
懇親会		
幹事会 (幹事のみ)		

会社・大学名 _____

委員氏名 _____ (代理) _____

なお、出席予定の大学側委員で旅費の支給が今回不要な委員は次の欄に○印をお付け下さい。

今回は旅費の支給が不要

.....
変更事項がございましたらご記入下さい。

郵便番号 _____

勤務先住所 _____

会社 (大学名) _____

部署 _____

委員氏名 _____

電話番号 () - FAX 番号 () - _____

E-mail (公開される方のみ) _____

連絡欄：講師の推薦やコメントがございましたらご自由にお書きください。